

# 消滅可能性都市から挑戦可能性都市へ スマートシティで未来を創る



加賀市長  
みやもと りく  
宮元 陸氏

1956年 片山津温泉生まれ  
片山津小学校、片山津中学校、星稜高校卒業  
法政大学法学部政治学科を卒業後、衆議院議員秘書を務める

1999年 石川県議会議員  
4期務め、県議会副議長・県監査委員・  
県議会運営委員会委員を歴任  
2013年 加賀市長就任。現在3期目

最先端のデジタル技術を駆使した施策を矢継ぎ早に打ち出し、注目を集める加賀市。2022年には北陸初の国家戦略特区に指定され、全国に先駆けた取り組みを積極的に展開しています。攻めの姿勢で「挑戦」を続ける宮元市長に話をうかがいました。

先端技術導入と人材育成で  
スマートシティを目指す

加賀市はかつて大聖寺藩の城下町として発展した地。九谷焼や山中漆器などの伝統工芸が受け継がれ、現在も部品メーカーを中心にもつくり産業が盛んです。加賀市といえば加賀温泉郷を思い浮かべる方も多いでしょう。山代・山中片山津の3温泉地はそれぞれに個性があり、美しい景観や歴史文化が魅力です。

一方では著しい人口減少という大きな課題を抱えています。2014年には人口流出や少子化で存続が危ぶまれる「消滅可能性都市」に名が挙げられました。衝撃的な指摘ですよね。もう後がない。先に述べたように市の主要産業はものづくり

と観光。自治体として生き残りを図るには、新たな産業創出が必要だと考えました。地域課題を解決し、産業構造を変える土台となるのはAIやIoTといった先端技術。市では「先端テクノロジー導入」と「人材育成」を2本柱に据え、官民一体となってスマートシティ化に取り組んでいます。

例えば現在進めているスマートパス構想は、顔認証で各種サービスを利用できるというもの。全国トップクラスのマイナンバーカード普及率を生かした取り組みです。人材育成の面では、プログラミング教育必修化の3年前から市内小中学校で授業をスタート。2019年には、子ども達が気軽に先端技術に触れられる米国発の施設「コンピュータクラブハウス」が日本で初めて開設されまし

た。世界の子ども達が集うロボット国際大会も開催しています。人材育成には長期的な視野と息の長い取り組みが欠かせません。今は大変ですが将来必ず実を結ぶでしょう。

スマートシティの取り組みは、実証と改善を積み重ねてシステムを磨き上げる「アジャイル型」で行っています。まずやってみる。そのスピード感が重要だと考えています。

市民のために汗をかき  
まちの未来に夢を描きたい

2024年3月の北陸新幹線加賀温泉駅開業に向けて、機運を高めるカウントダウンイベントを断続的に行っています。加賀温泉駅前では、未来型商業エリアの開発計画も進行中。新幹線開業後も常に新しくなっていく。そんなまちづくりを進めています。

将来の加賀市像を思い描く時、目に浮かぶのは市民の姿。現在の地道な取り組みの先に「豊かになった」「暮らしやすくなった」という幸せが

あつてほしい。そうした志を市職員とも共有しています。人口減少に歯止めをかけ、かつての大聖寺十萬石の活気と誇りを再び実感できるようなまちになればと願っています。

未来に夢を描くことも、忘れてはいけません。加賀市が進める「空の産業集積」プロジェクトでは、ドローンなどを活用した新ビジネス創出を目指しています。加賀市で空飛ぶクルマが実用化される日も、そう遠くないかもしれません。消滅可能性都市から「挑戦可能性都市」へ。先進的な挑戦は続きます。



加賀市は国家戦略特区「デジタル田園健康特区」に指定されている